

目標：収量 200kg/10a 以上、2 等級以上

天候を見て計画を立て、適期の中耕・培土で雑草を防除しましょう！

## － 重点技術対策 －

- 帰化アサガオ類などの難防除雑草は、培土と除草剤の体系防除を実施
- 大雨に備えた排水経路の点検と、湿害時の追肥対応
- 干ばつ時は、用水計画を考慮したかん水を実施
- 適期防除で、病害粒の発生防止

### 1 生育経過

- 5月下旬から6月中旬まで降水量が少なく、播種作業は順調で碎土率は前年より良好であった。
- 出芽・苗立ちは、梅雨入り後の適度な降雨によって、生育は順調である。

#### 【6月25日調査 里のほほえみ生育状況】

調査地点	は種日	栽植密度 (本/m <sup>2</sup> )	主茎長 (cm)	主茎葉数 (葉)
三条市	5/26	11.7	17.3	2.6
燕市	6/15	12.7	5.8	0.0 (初生葉展開)

### 2 雑草対策 ～帰化アサガオ類などの難防除雑草は、早期に防除～

#### (1) 中耕・培土

雑草防除、倒伏防止、根圏の改善及び根の発達による生育促進を図るため、開花期前（7月20日頃まで）に晴れ間を見て、中耕・培土を適期に2回以上行う。

#### (2) 雑草多発時

中耕・培土だけでは十分な除草効果が得られないと判断した場合は、雑草の草種に応じた生育期除草剤を活用する。

#### (3) 難防除雑草（帰化アサガオ類）

帰化アサガオ類が発生しているほ場では、つるが伸び始める前に中耕・培土を行うとともに、有効な除草剤による体系防除により、被害拡大防止に努める。

畦畔などほ場周辺で発生が見られた場合は、種子を作らせないタイミング（開花・結実前）で防除・除去する。

### 3 大雨等による排水・湿害対策 ～大雨や浸水時に、地表水を速やかに排除～

#### (1) 排水対策

暗渠の崩れを直し培土の溝と排水溝を繋ぎ、ほ場内の排水路を確保する。

地下水位の上昇を避けるため、暗渠栓や水尻は開放したままにする。

#### (2) 湿害対策

湿害による葉の黄化や生育不良などの症状が見られた場合は、培土直前に速効性肥料を窒素成分で2～3kg/10a 追肥する。

#### 4 干ばつ害防止対策

(1) 暗渠栓の開閉 ～開花期以降は、ほ場の土壌水分を保つ管理を徹底～

- ・地下水位を維持するため、通常時（大雨以外）は暗渠栓を閉じる。ただし、大雨時は、速やかに暗渠栓を開放し排水に努める。

(2) 畦間かん水 ～用水計画を考慮し、可能な範囲で実施～

- ・畦間かん水は、排水良好なほ場（1日で地表水を排水できるほ場）で行う。
- ・畦間かん水は、朝夕の涼しい時間帯に短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら水を止め、速やかに排水する。

##### 【畦間かん水のめやす】

- 概ね2週間以上降雨がなく、表土が白く乾燥している状態
- 最頂葉中央の葉が直立し、ほ場全体では葉の裏面が目立ってきた場合（写真）



最頂葉中央の葉が直立する



ほ場では葉の裏面が目立ってくる

#### 5 病害虫防除 ～紫斑病、子実害虫の基幹防除を徹底～

(1) 紫斑病

防除効果が高い開花4週間後に薬剤散布する。（大豆の開花期とは、ほ場の全株数の40～50%が、開花始め（主茎上で1花以上開花した時）に達した日を指す）

(2) 葉焼病

主に、里のほほえみにおいて発生が見られる。早期に発生すると減収につながるの  
で、開花期頃（7月下旬頃）に発生が確認されたら防除する。

(3) ウコンノメイガ

- ・播種が早いほ場や生育が旺盛なほ場で発生しやすく、7月中下旬から葉を巻いて幼虫が食害する。7月下旬頃、1株当たり2個以上の葉巻が見られた場合は、発生初期（7月下旬頃）に遅れずに防除する。

(4) マメシンクイガ

- ・連作ほ場や、前年被害がみられたほ場で多発生しやすい。
- ・防除時期は8月下旬～9月上旬頃に1回、前年多発したほ場は8月下旬と9月上旬の2回防除する。薬剤は、莢によく付着するように散布する。

- ・農薬の使用にあたっては、ラベルの記載事項を遵守して使用しましょう。
- ・農薬散布の際は、周辺のほ場へ飛散しないよう注意しましょう。